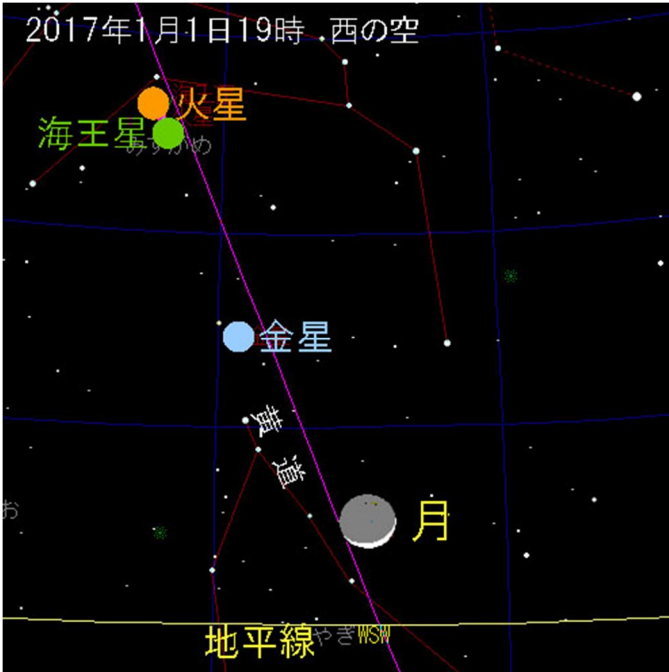


## 「お正月 “月の挨拶回り”」

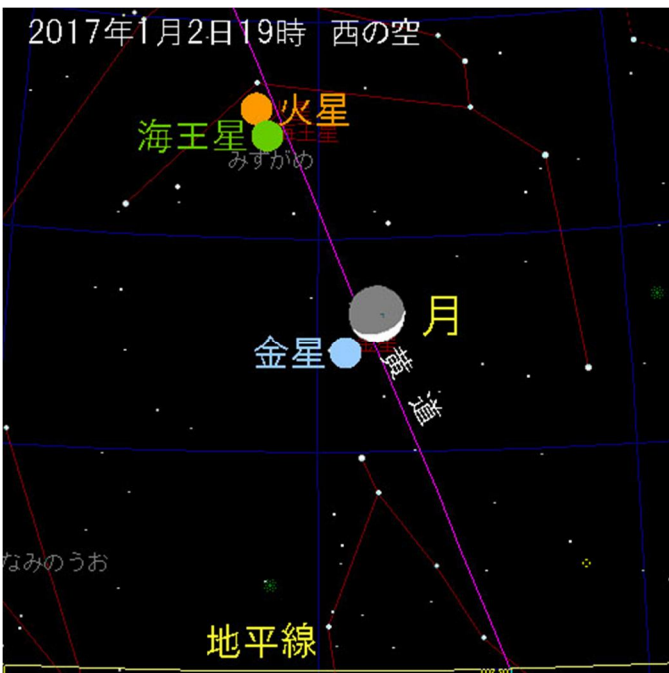
お茶の水女子大学附属小学校 田中 千尋

(※図では、天体の大きさは誇張して描いている。)

明日からの正月3日間、太陽系の天体同士が接近して見える、面白い天文現象が連続きに起きる。いずれも夕方の西の空、黄道(太陽の通り道)周辺だ。



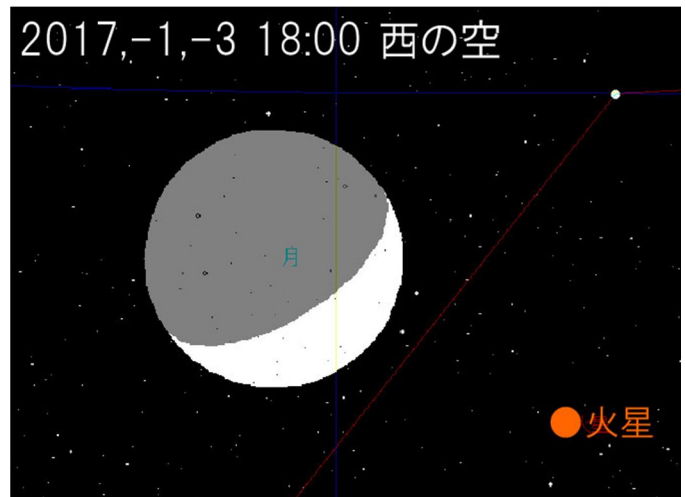
1月1日の19時ごろ、火星・金星・月が、黄道上にほぼ等間隔に並ぶ。また海王星と火星が大接近する。海王星と火星の離隔(離れて見える角距離)はわずかに $0^{\circ} 05' 42''$ 。火星は0.9等なので肉眼で見えるが、海王星は7.9等で肉眼では見えない。しかし双眼鏡があれば、太陽系最果ての惑星を見られるだろう。



1月2日19時頃には、には細い月と金星が接近する。「月の涙」という現象だ。月と金星は稀に重なることがあるが、残念ながら今回は重ならない。



1月3日18時頃には、今度は月が火星に大接近する。「大接近」といっても、実際に星同士の距離が接近するわけではなく、地球からの見かけの角距離が小さくなるということだ。今回の接近は $0^{\circ} 39' 49''$ と、月の直径ほどまで接近する。月もまだ細いので、肉眼や双眼鏡でよく見えるだろう。実際の月の大きさと、火星の位置の関係は、下図のようになる。



さながら、月が太陽系の惑星たちに「新年の挨拶回り」をしているようだ。是非ご覧いただきたい。